

## 地域の健康を、 地域で守る。 関西医大。



### ■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101 (代)  
<https://www.kmu.ac.jp/hirakata/>  
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1  
地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)  
TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861



### ■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001 (代)  
<https://www.kmu.ac.jp/takii/>  
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15  
地域医療連携部 病診連携課  
TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488



### ■ 関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321 (代)  
<https://www.kmu.ac.jp/kori/>  
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45  
地域医療連携部 病診連携課  
TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988



### ■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005 (代)  
<https://www.kmu.ac.jp/kuzuha/>  
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1  
地域医療連携課  
TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022



### ■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260 (代)  
<https://www.kmu.ac.jp/temmabashi/>  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)  
TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



### ■ くずは駅中健康・健診センター

TEL.072-809-2005 (代)  
<https://www.kmu.ac.jp/kuzuhaekinaka/>  
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町14-1 (京阪くずは駅ビル南館 2階)  
TEL.072-809-2005



## INDEX

### 巻頭 特集

地域の健康を地域で支える。  
関西医大。

#### ■ 附属病院

新任教授に聞く 森景 則保 06  
新任センター教授に聞く 金井 雅史 07  
アレルギーセンターの  
ご紹介 小林 良樹 08

#### ■ 総合医療センター

これからの血液腫瘍内科  
診療について 石井 一慶 09  
アレルギーセンターの  
ご紹介 岡田 昌也 10

#### ■ 香里病院

小児科のご紹介 朝子 幹也 11  
リハビリテーション科の  
ご紹介 田邊 裕子 12  
関医デイケアセンター  
・香里のご紹介 小倉 久幸 13  
赤松 和博 13

#### ■ くずは病院

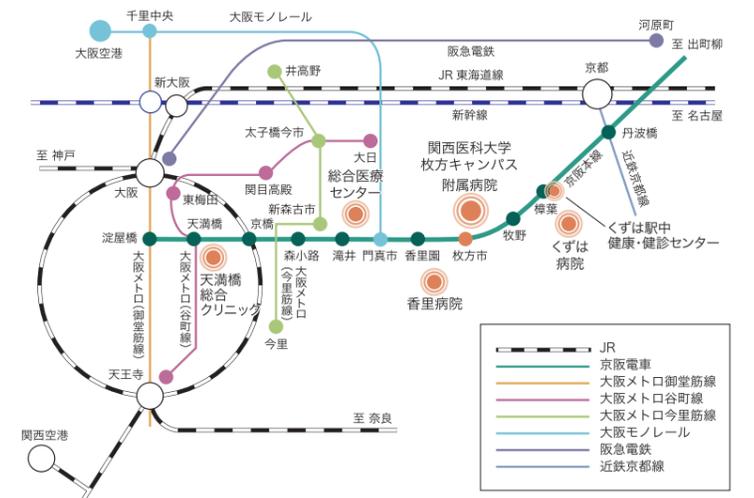
整形外科医に聞く 黒川 勇人 14  
心臓リハビリテーションの  
ご紹介 森井 裕太 15

#### ■ 天満橋総合クリニック

内科医長に聞く 畑田 憲吾 17

#### ■ くずは駅中健康・健診センター

新しい予防医療の研修について 浦上 昌也 18  
ご紹介





「運動療法」を先駆けて提供しています。

## 附属病院健康科学センター



健康科学センターは、附属病院の建設時に「これからは予防医療・リハビリ医療が必ず求められる」との狙いで、大学病院としては屈指の規模で整備されました。以来、最新のフィットネスマシンや運動療法の専門家を配置し、多くの患者に治療終了後や慢性期・維持期における治療としての運動を提供してきました。最近では有酸素運動「筋力トレーニング」だけでなく「バスキュラーストレッチ」プログラムもスタート。身体の伸展に伴い血管が伸縮することで動脈硬化を防ぐ効果が報告されており、高強度の運動ができない人でも取り組めるため、大きな注目を集めています。センターでは現在、心不全やがんなどの術後患者を中心に運動療法を提供していますが、他にも「がんフレイル予防外来」などの専門外来を設けています。さらに、女性診療科と連携して女性アスリートを対象とした「女性アスリート外来」も開設していますので、ご注目ください。



関西医科大学附属病院  
健康科学センター センター長

木村 穰



### 運動は「おくすり」です

近年、体を動かすことが健康に有益であるとのエビデンスが多数発表されています。「エクササイズ・イズ・メディシン (EIM: 運動はお薬です)」の認識も広がり、もはや運動は治療そのものになってきました。健康サポートではなく治療選択肢の一つとして、ぜひ当センターへ患者をご紹介ください。

# 地域の健康を、地域で守る。関西医大。

「人生100年」といわれる現代。できる限り早期に疾患を見つけること、病気治療後に元の暮らしに戻すこと、そもそも病気にかからせないことがますます重要になってきました。北河内の皆さんが自分らしく、健康に暮らすために地域の先生方とともに。私たち関西医科大学は、京阪沿線各所の附属医療機関において予防医学・健康科学に関する医療サービスを提供中です。人材育成も含めた、私たちの「健康を守る取り組み」をご紹介します。



## 関西医大のグループ力

- ① くずは駅中健康・健診センター
- ② 関西医科大学くずは病院
- ③ 関西医科大学 牧野キャンパス リハビリテーション学部
- ④ 関西医大交流センター
- ⑤ 関西医科大学 枚方学舎
- ⑥ 関西医科大学 看護学部棟
- ⑦ 関医慈仁館
- ⑧ 関医タワー
- ⑨ 関西医大アネックスビル
- ⑩ 関西医科大学附属病院
- ⑪ 関西医科大学 香里病院
- ⑫ 関西医科大学 総合医療センター
- ⑬ 関西医科大学 天満橋総合クリニック



関西医大が目指すのは地域の先生方と二人三脚で、北河内エリアの住民の健康と日常を守る包括的ネットワークを構築すること。そのため、私たちは発病前・超急性期から病後の再発予防・健康維持管理まで対応する、一貫した健康・医療体制を構築しています。急性期を担うのは附属病院と総合医療センター。地域に根ざし急性期との橋渡し役も果たす香里病院、くずは病院。天満橋総合クリニックは早期治療介入のきっかけづくりを通して健康への入り口を、くずは駅中健康・健診センターは早期発見に加えて病前病後の運動療法を提供しています。また、近年重要度が増す予防医学・リハビリ医療において、実践知×アカデミアの融合で人材育成を進めている点も関西医大の強みです。



# 総合医療センター・健康科学センター



データに裏打ちされた  
確かな運動療法。  
カギは継続させること、  
そして継続できることです。



目指すのは、健康寿命の延伸、寝たきりにならない身体づくり。センターでは健康運動指導士（心臓リハビリテーション指導士資格取得）や専任看護師が常駐し、患者一人ひとりが目標を達成できるようなサポート。心筋梗塞や冠動脈バイパス術後など心大血管疾患をお持ちの方、糖尿病や脂質異常症、さらにはNASH（非アルコール性脂肪肝）など生活習慣病をお持ちの方を主な対象とし、個別性のある運動プログラムを提供しています。また運動を行う上で重要な「継続する意思」が途切れないよう、スタッフは有酸素運動、筋力トレーニングの実施だけでなく、自宅でできる運動や生活活動強度を上げるコツをお伝えするなど、モチベーションを維持していただくための一歩踏み込んだフォローを大切にしています。

## 朴 幸男 関西医科大学総合医療センター 健康科学センター センター長

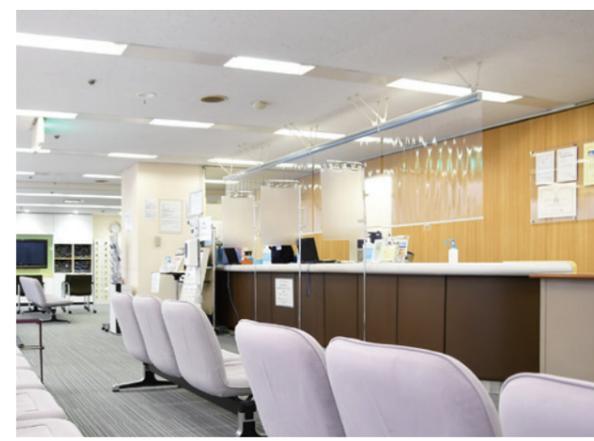


**地域連携を大切に**  
最近「心臓病の再発予防や生活習慣病の改善に運動が有効」と広く言われるようになりましたが、どうやって適切な運動を指導すれば良いかわからないといった先生方のお声を頂戴します。当センターは地域内の医療分担・情報共有を推進しており、かかりつけ医の先生方と運動の状況を共有することで、安全かつ効果的な運動指導を実現しています。

# 天満橋総合クリニック



人間ドックの提供は、  
はや半世紀以上。  
年間2万名超の健診を  
行っています。



## 大宮 美香 関西医科大学天満橋総合クリニック 院長



**さらなる地域連携を**  
当クリニックは内科・眼科・皮膚科・乳腺外科からなる外来部門と総合健診センターで構成されています。1969年の開院以来、50年余りを地域の先生方・患者と歩んできましたが、今後さらに病診連携・病病連携を発展させたいと考えています。かかりつけ患者さんの検診結果など、情報提供が必要な際はいつでもお気軽にご連絡ください。

健康診断とクリニックを併設した都市型医療拠点である天満橋総合クリニックは、時代に先駆けて予防医療の重要性に着目し、大病院クオリティの人間ドック・健康診断を提供してきました。アクセシビリティにも恵まれ、いまや年間健診受診者数は2万人以上。日本総合健診医学会から優良総合健診施設認定を受けていること、また要精検・要治療例は関西医科大学グループ病院へスムーズに連携できる点が強みです。これからも多様化する受検者のニーズに応えられるよう、健診メニューの見直しや新たな検査の導入、受診環境の整備へ常に配慮し、受診された方々の健康状態の確認、また発病前のいわゆる「未病」の段階での生活習慣指導、疾患の早期発見に努めることで地域医療に貢献していきます。

# くずは駅中健康・健診センター



大学病院クオリティの  
運動療法・健診を身近に。  
最新の設備・エビデンスに  
基づき多彩なプログラムを  
提供中。



健診とメディカルフィットネス、および健康教育を行う新たな予防医療施設として2022年11月にオープンしました。ミッションは、生活の質を著しく低下させる病気やその危険因子を早期に発見し治療へ導くだけでなく、病後・術後の回復、再発予防にも注力し、人々の健康寿命に貢献することです。そのため、健診部門では、個々の特性に応じた人間ドック健診を受けていただくための「健診の窓口」を設置します。メディカルフィットネスでは8つのコースをご用意、あわせてヨガ、ストレッチポールといったスタジオプログラムの実施、生活習慣への改善助言・指導も行っていきます。現在治療中の病気の重症化予防と合わせて、受診者が自分の健康状態を正しく理解し、自ら予防対策を実践できる学習実践型の予防医療施設（健康カレッジ）となることを目指します。

## 浦上 昌也 くずは駅中健康・健診センター センター長



**地域の健康寿命に貢献**  
予防医療の目的は「早すぎる死」を予防し、心身ともに健康で障害のない期間、いわゆる健康寿命を延ばすことにあります。そのため当センターでは、健康状態を正確に評価するための健診と病気を予防するためのさまざまな支援を提供中。患者さんの日々の診療にお役に立てる健診や運動プログラムがあればぜひご紹介ください。

## 提供中の運動コース

- サルコペニア・フレイル予防コース**  
骨格筋評価による現在の筋肉量からメタニューを検討。筋力の維持や増強を狙い、サルコペニアとフレイルを予防します。
- 認知症予防コース**  
タブレットを使った認知機能検査の結果から、最新の医学研究に基づく運動プログラムで神経細胞の活性化を図ります。
- メタボ予防／減量コース**  
心肺運動負荷試験の結果を踏まえ、「脂肪燃焼を得られる運動」という観点からニーズに合わせた運動プログラムを提供します。
- 健康維持・長寿コース**  
心肺運動負荷試験などの結果に基づき、利用者個人の現在の体力に応じて最適な運動プログラムを作成、提供します。
- 高血圧／脂質異常症コース**  
心肺運動負荷試験や血圧測定、塩分摂取量、血管年齢の結果を総合的に分析し、最適な運動プログラムを提供します。
- 糖尿病コース**  
主治医／かかりつけ医と連携しながら糖尿病の増悪予防を目指します。治療中の方は主治医の紹介状が必要です。
- がんサポートコース**  
再発予防、体調回復に主眼を置いたコース。主治医／かかりつけ医と連携し、治療経過や体調に合わせプログラムを作成します。
- 心疾患コース**  
心臓リハビリテーションとして、再発予防プログラムを作成します。他院で心臓リハビリが終了した方も利用可能です。

# 教育・人材育成

実践知 × アカデミアの融合

関西医大は  
教育・人材育成に  
注力しています

予防医学、健康科学の重要性が高まる中、医療業界で課題となっているのが現場を担うスタッフ不足です。関西医大では2021年4月にリハビリテーション学部を新設し、理学療法学科・作業療法学科の2学科制でセラピストの育成を本格化させました。深い知見と高い技術力をもつ教職員を配属し、附属医療機関群を活用して予防医学の最前線で臨床実習を実施。病気の予防から早期発見、治療後の回復、再発予防にいたるまで、現場経験を積んだ実践的応用力のある人材を育成しています。

関西医大はこれまでの「治療」だけでなく、「予防」「発見」にも力を尽くします。

New Doctor Interview

## 新任教授に聞く

関西医科大学附属病院  
心臓血管外科 診療教授

森景 則保

Morikage Noriyasu



### 極めて死亡率の高い 動脈瘤破裂。 先進的な治療のご提供と、 病気の周知に尽力します

昨年12月、心臓血管外科の診療教授に着任いたしました。専門は血管外科で、心臓血管外科専門医をはじめ血管関係のほぼ全ての資格を有し、前職では血管外科責任者としてさまざまな外科手術、血管内治療を行ってまいりました。

最も得意とするのは腹部大動脈瘤におけるステントグラフト手術で、約1,500例の実績があります。この治療法の利点は、なんといっても低侵襲性です。ステントグラフトとは形状記憶型金属ステントが付いた人工血管で、カテーテルを使い大動脈内に留置することで大動脈瘤の破裂を予防します。以前は脚の付け根を数センチ切開して施行していましたが、現在は切開も不要です。手術翌日には歩行も食事も通常通り。数日で社会復帰が可能です。昔は開腹して行う人工血管置換術しか選択肢がありませんでしたが、ステントグラフト治療が年々普及し、現在は前者が全体治療の約4割、後者が約6割となつていきます。しかし、低侵襲はこの治療法が6割にとどまっているのは2つの課題があります。一つが、患部の解剖学的状態によって適応が難しい患者さんがいること。もう一つが遠隔期における再治療への懸念です。そこで私はこれらの課題について臨床研究を進めてきました。新たな手技を開発し、人工血管置換術と遜色な

## Profile

- 1992年5月 山口大学医学部附属病院 医員
- 1992年8月 厚生連周東総合病院 外科
- 1994年8月 山口大学医学部附属病院 医員
- 1995年8月 白石共立病院 外科
- 1997年8月 山口大学医学部附属病院 医員
- 2000年8月 萩市民病院 外科
- 2001年4月 山口大学医学部先進救急医療センター 助手
- 2002年10月 厚生連長門総合病院 外科
- 2005年3月 山口大学医学部 第一外科 助教
- 2010年8月 山口大学医学部 第一外科 講師
- 2022年4月 山口大学医学部 第一外科 診療准教授
- 2023年12月 関西医科大学附属病院 心臓血管外科 診療教授

い治療成績を実現。また再発予防に効果的と見込まれた治療法について、長期的な成績が担保されるエビデンスを世界で初めて提示し、当治療法に関する日本のガイドライン改定へ寄与しました。全国の主要な約60施設へ直接に手術指導も行ってまいりました。動脈瘤破裂は発症までは無症状で致死率の高い病気ですが、破裂前に発見すれば治療が可能です。病気の存在、健診の有用性を周知することも専門家としての務めと考え、今後は市民の方々、当疾患を専門とされないクリニックの先生方にも積極的に情報提供を行うべく所存です。

また動脈瘤はもとより、血管疾患を少しでも疑えばいつでも気軽に紹介ください。これまでの経験を活かし、北河内エリアの皆さまの健康に貢献できるよう尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 医師インタビュー特集

# KEY-PERSONに聞く。

関西医大グループの各附属医療機関で診療の最前線に立つ教職員から、センター長・新任教授・診療部長・診療科長を中心にKEY-PERSON＝カギを握る人物をピックアップ。現在取り組んでいることや得意な治療・領域、これからの展望など、語っていただきました。

### ■ 附属病院

心臓血管外科 診療教授  
がんセンター センター教授  
アレルギーセンター センター長

森景 則保  
金井 雅史  
小林 良樹

### ■ 総合医療センター

血液腫瘍内科 部長・診療教授 がん治療・緩和ケアセンター センター長  
血液腫瘍内科 病院教授 輸血部 部長  
アレルギーセンター センター長(耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 部長)

石井一慶  
岡田 昌也  
朝子 幹也

### ■ 香里病院

小児科 科長  
リハビリテーション科  
デイケアセンター・香里 相談員 介護福祉士

田邊 裕子  
小倉 久幸  
赤松 和博

### ■ くずは病院

整形外科 助教  
リハビリテーションセンター 主任

黒川 勇人  
森井 裕太

### ■ 天満橋総合クリニック

内科 医長(外来部門・総合健診部門)

畑田 憲吾

### ■ くずは駅中健康・健診センター

くずは駅中健康・健診センター センター長

浦上 昌也



New Professor Interview

新任センター教授に聞く

関西医科大学附属病院  
がんセンター センター教授

金井 雅史

Kanai Masashi

進歩にともない患者数が増える  
がん薬物療法について、次世代のモデルケース構築へ

今年1月、当院がんセンター センター教授に  
着任いたしました。専門であるがん薬物療法の  
実践と、がんゲノム医療を担当しています。医師  
のキャリアは消化器内科からスタートしました  
が、スキルス胃癌で余命数カ月といわれた患者  
さんにバクリタキセル投与が著効した例を経験  
して、がん薬物療法に興味を持ち、米留学を  
経てがん薬物療法専門医へ。これまで原発不明  
がん・稀少がんなど既存の診療科では分類が難  
しいようながん、治療法が複雑化しつつある消  
化器がんを中心にさまざまな治療を実践してま  
いりました。特に日本で2019年より保険適  
用となったがん遺伝子パネル検査について、前職  
では2015年より臨床導入していましたので、  
私自身すでに3千例を超える経験があります。  
また、がん薬物療法の進歩とともに顕著化しつ  
つある患者さんの増加、ベッド数看護師不足と  
いった課題を克服すべく、薬液バック自動切り替  
え装置の開発などにも取り組んでおります。

ります。また当領域は日進月歩で、専門家であつ  
ても最新情報を網羅することは容易ではありません。  
せん。そこで地域医療を担うクリニックの先生方  
に向けて、最新トピックスに関する分かりやすい  
情報発信を実施してまいります。地域の患者さ  
んに最適なケアを提供できる存在になりたいと  
願っておりますので、がん薬物療法に関してお困  
りのことがありましたらお声がけください。

近年、免疫チェックポイント阻害薬を含む新規  
抗がん剤の開発に伴い、がん薬物療法の実践に  
はますます専門的な知識が求められるようにな  
りました。当センターの外來化学療法室は1  
日約100名の患者さんを受け入れています  
がこの数字は全国でも有数の実績であり、先に  
述べた薬液バック自動切り替え装置を始め、今  
後も先駆的なシステムを積極的に取り入れ、次  
世代の外來化学療法室のモデルケースとなるよ  
うな体制を当院で開拓できるよう尽力してまい

Profile

- 1994年3月 京都大学医学部 卒業
- 1994年4月 京都大学医学部附属病院 内科 研修医
- 1995年6月 関西電力病院 内科 勤務
- 1997年4月 京都大学大学院医学研究科 博士課程内科系専攻入学(医学博士)
- 2001年6月 京都桂病院 消化器センター勤務(副医長)
- 2004年1月 MD アンダーソン癌センター ポストドクトラルフェロー・  
日本学術振興会 海外特別研究員 ECFMG取得
- 2006年4月 京都大学附属病院探索医療センター 助手
- 2011年4月 京都大学大学院医学研究科 臨床腫瘍薬理学講座 特定講師
- 2015年4月 京都大学大学院医学研究科 臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座 特定准教授
- 2020年2月 京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 准教授(医局長)
- 2024年1月 関西医科大学附属病院がんセンター センター教授



Speciality Service Interview

センター長に  
聞く

関西医科大学附属病院  
アレルギーセンター センター准教授  
センター長

小林 良樹

Kobayashi Yoshiki

複数のアレルギー疾患がある方が診療科に  
迷わずに済むよう、包括的なケアを提供します

当院では2017年、多岐にわたるアレル  
ギー疾患を受け入れるため当センターを設立  
し、2018年には大阪府アレルギー疾患医療  
拠点病院に認可されました。今回改めてご挨拶  
申し上げます。昨年度よりセンター長を務めて  
おります小林です。呼吸器内科の中でも喘息を  
専門としており、アレルギー性鼻炎や好酸球性  
副鼻腔炎をはじめ複数のアレルギー疾患を合併  
する患者さんたちの「掛け持ち通院」への難儀さ  
を多く耳にし、「上気道も下気道も一緒に診られ  
る体制をつくりたい」と当院へ入職した経緯が  
あります。当センター設立から携わってきたメン  
バーの一人で、これまでも実働部隊のコアメン  
バーとして稼働してまいりました。

れる中、患者さんへの包括的なケア体制を磨き  
ながら、今後もっと受入数を増やしていきたいと  
考えています。またセンターとしての積極的な  
情報発信、患者さん同士のコミュニティ創出にも  
取り組んでいきたいと考えています。最近では当院  
で定期フォロー(検査、処方変更、食事指導など)  
を行い、日常のケアは地域のクリニックと連携し  
ておこなうケースも増えてきました。喘息、アレ  
ルギー性鼻炎、皮膚アレルギー、食物アレルギー  
など複数のアレルギー疾患でお困りの患者さん  
がいらっしゃれば、お気軽にお声がけください。

現在の診療拠点を設けていることです。  
現在、専用診察室では各診療科のアレルギー  
専門医が協力し、成人アレルギー外来、小児アレ  
ルギー外来を月々金、二診体制で実施。医師、コ  
メディカルが丸となって、病気に苦しむ患者さ  
んを一人でも減らすべく努めております。これま  
で、クリニックの先生方からアレルギー疾患の患  
者さんを紹介いただく際、特に複数の症状を  
合併している患者さんのケースなど、紹介先の  
診療科に迷われることも多かったかと存じます  
が「アレルギーセンター外来」にご紹介いただ  
ければ、診療各科による横断的な協力のもと最適  
なケアを提供いたします。国民の約2人に1人  
が何らかのアレルギー疾患を持っているといわ

Profile

- 1999年3月 山口大学医学部 卒業
- 1999年5月 京都大学医学部附属病院 内科 研修医
- 2001年4月 高槻赤十字病院 呼吸器科 医員
- 2004年5月 秋田大学医学部附属病院 中央検査部 医員
- 2007年9月 京都大学 博士(医学)
- 2008年4月 英・インペリアル大学 国立心臓研究所 呼吸器疾患部門 客員研究員
- 2011年6月 秋田大学医学部 大学院医学系研究科 地域医療連携学 寄附講座講師
- 2013年4月 関西医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教
- 2015年5月 関西医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
- 2016年6月 関西医科大学 内科学第一(呼吸器感染症内科) 兼任
- 2018年7月 関西医科大学附属病院 アレルギーセンター 副センター長
- 2023年4月 関西医科大学附属病院 アレルギーセンター センター長(同センター専任)
- 2023年8月 関西医科大学附属病院 アレルギーセンター センター准教授

Speciality Service  
Conversation

## これからの 血液腫瘍内科 診療について

関西医科大学総合医療センター  
血液腫瘍内科 病院教授  
輸血部 部長

**岡田 昌也**

Okada Masaya

関西医科大学総合医療センター  
血液腫瘍内科 診療教授  
がん治療・緩和ケアセンター センター長

**石井 一慶**

Ishii Kazuyoshi

### PROFILE

1989年3月 高知医科大学医学部 卒業  
1993年3月 高知医科大学大学院 医学研究科 博士課程修了(医学博士)  
1993年10月 世界保健機構(WHO)西太平洋地域事務局感染症部 インターン(フィリピン)  
1995年3月 東京大学大学院 国際保健学 修士課程修了(保健学修士)  
1995年4月 ロックフェラー大学 医科ウイルス学講座 リサーチフェロー(アメリカ)  
1996年5月 三世会河内総合病院 内科 医長  
1998年5月 天理よろづ相談所病院 血液内科 医員  
2000年2月 清水会鶴見緑地病院 内科 医員  
2001年3月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター)内科学第1講座 助手  
2002年1月 市立岸和田市民病院 血液内科 医長  
2010年4月 市立岸和田市民病院 血液内科 部長  
2012年4月 関西医科大学 内科学第一講座 講師  
2013年8月 関西医科大学 内科学第一講座 准教授  
2014年10月 関西医科大学 内科学第一講座 教授、関西医科大学総合医療センター 血液腫瘍内科 部長  
2015年4月 関西医科大学総合医療センター がん治療・緩和ケアセンター センター長

### PROFILE

1990年3月 兵庫医科大学医学部 卒業  
1990年4月 兵庫医科大学病院 第二内科 研修医 入局  
1993年4月 兵庫医科大学病院 第二内科 医員  
1994年4月 兵庫医科大学 大学院 入学  
1998年3月 兵庫医科大学 大学院 卒業(医学博士)  
1998年4月 兵庫医科大学 第二内科 助手  
1999年4月 国立大阪病院(現・国立病院機構 大阪医療センター) 医師  
2001年6月 兵庫医科大学 血液内科 助手  
2003年4月 兵庫医科大学 血液内科 講師  
2020年4月 兵庫医科大学 呼吸器・血液内科 講師  
2023年4月 関西医科大学総合医療センター 血液腫瘍内科 病院教授、  
輸血部 部長

## 血液腫瘍内科では 先進的な細胞免疫療法を 積極的に導入しています

**石井** 近年、血液のがんに対する研究が進み治療法の選択肢が増えていきます。そんな中、当科では「造血幹細胞移植」と「細胞免疫療法」を広く展開していく予定であり、豊富な経験をもつ岡田医師が当院に着任されたことで診療体制が大変強化されました。

**岡田** 前職では造血幹細胞移植や腫瘍性血液疾患の治療に長く携わっておりました。これまでの経験を活かし、地域医療に貢献してまいりますので、よろしくお願いいたします。

**石井** 造血幹細胞移植(患者本人の造血幹細胞を用いる自家移植)は、装置の運用の兼ね合いから当院での実施を数年間ストップしていましたが、昨年12月より施術を再開しております。加えて、同種末梢血幹細胞移植もできるようになりましたのでお知らせ申し上げます。

**岡田** 今後は従来の白血病治療や自家移植に加え、同種移植も本格的に受け入れていきたいですね。現在、より安全・安心な医療を提供すべく無菌室の増設に向けて準備しています。

**石井** あわせて細胞免疫療法についても取り扱い準備を進めております。全国でもまだ実施

できる施設が少ない中、関西医科大学系列ですでに枚方の附属病院が治療を開始しています。私は北河内エリアにおける血液腫瘍内科の少なさに課題を感じています。「地域に根ざし」、地域医療を担っていくをモットーとする当院が、断らない病院”を実現し続けていくためには当院でも導入することが必須であると考えています。今後も当科では先進的な治療法を積極的に導入してまいります。

**岡田** また血液がんだけでなく、貧血や出血傾向で苦しむ患者さんについてもぜひ当科へご紹介ください。特に今は70代以降の約2割が何らかの貧血をもち、さらにそのうち何割かの方は血液疾患があるといわれています。当科で何が原因かをしっかりと診察して、適切な治療をご提供します。



成分分離装置(テルモ・オブテア)

## アフターコロナで懸念されるアレルギー疾患の患者数増に、「一歩踏み込む治療」で応えます

地域の先生方には、日頃より病診連携を通じて大変お世話になっております。アフターコロナと言われる今アレルギーセンター センター長である私が重要視しているのは、今後増えるであろうアレルギー性疾患に対する当センターの体制強化、および地域への情報発信です。まず花粉症については2019年のコロナ禍以来、わが国ではマスクを着用する人が増え、結果として重症患者数新規発症者数の減少が見られました。しかし現在はマスクを外す人が増加しており、これから重症化、発症リスクの上昇が懸念されています。そんな中において、花粉症を含むアレルギー性鼻炎による人々のQOL(生活の質)の低下を防ぐべく、日本耳鼻咽喉科学会が打ち出したのが「花粉症重症化ゼロ作戦」プロジェクトです。私自身、日本アレルギー学会、日本鼻科学会の理事を務める身として、またアレルギー専門医として当プロジェクトの推進に尽力し、地域の先生方と患者さんそれぞれに多くのメッセージを届けることが重要な任務の一つであると考えております。

加えて、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の部長として診療体制も強化してまいります。たとえば指定難病である好酸球性副鼻腔炎は喘息を合併し、重症化をきたしやすいことが知られています。当院では喘息も含めて患者さんの状態を二元的に管理しており、手術件数の豊富な実績に加え、新規治療法であるバイオ製剤の処方数は全国トップクラスを誇ります。また成人の食物ア

レルギーも診察可能で、一時的な重症化や必要な場合を除き、通常時は地域のかかりつけ医で診ていただく併診体制にも積極的に取り組んでまいりました。当院は幅広い疾患を診察治療できる医師の層の厚さと手術実績を両立している点が強みであり、高まる医療ニーズに応えるべく、今後ますます体制を強化していく所存です。一歩踏み込んだ治療で患者さんのQOL向上に貢献してまいりますので、地域のクリニックでお困りの症例があれば、ぜひお声がけください。

Speciality Service Interview

## アレルギーセンター センター長に聞く

関西医科大学総合医療センター  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授  
アレルギーセンター センター長

**朝子 幹也**

Asako Mikiya



### Profile

1992年3月 関西医科大学医学部 卒業  
1992年6月 関西医科大学 耳鼻咽喉科 入局  
1998年3月 関西医科大学大学院 医学研究科(博士課程)修了  
2001年10月 米・ミシガン大学 Kresge Hearing Research Institute 留学  
2009年4月 関西医科大学 耳鼻咽喉科 講師  
2014年4月 関西医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授  
2016年6月 関西医科大学総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長  
2016年8月 関西医科大学総合医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 病院教授  
2017年5月 関西医科大学総合医療センター アレルギーセンター センター長



Speciality Service Interview

## リハビリテーション科のご紹介 医師に聞く

関西医科大学香里病院  
リハビリテーション科 助教

### 小倉 久幸

Ogura Hisayuki

昨年より香里病院に勤務しております。リハビリテーション専門医の小倉と申します。急性期病棟の患者さんへのリハビリテーション（以下、リハビリ）介護保険によるリハビリ、および「関連ディケアセンター」香里を担当しています。リハビリ専門医の道を選んだのは、研修医時代にいろいろな診療科を回る中で、手術や内科的治療が成功しても誰もがすぐに元気な生活に戻れるわけではないこと、中には、病気が治った

「**リハビリ専門医として、1人でも多くの患者さんの「日常の困った」をなくしたい**



### ディケアセンター・香里について

経験豊富な理学療法士からフレッシュな若手療法士まで、層の厚いスタッフによる通所リハビリテーションを提供しています。大学病院の関連施設として最新の治験を取り入れたメニューを提供している点が特長です。他院を退院された後の方でも、地域に帰ってからお困りの方がいらっしゃればお声がけください。

## PROFILE

- 2016年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 2016年4月 関西医科大学附属病院 卒後臨床研修センター 初期研修医
- 2018年4月 関西医科大学総合医療センター リハビリテーション科 任期付助教
- 2018年10月 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 任期付助教
- 2019年4月 箕面市立病院 リハビリテーション科 後期研修医（レジデント）
- 2020年4月 関西医科大学総合医療センター リハビリテーション科 病院助教
- 2020年4月 関西医科大学大学院 入学
- 2021年9月 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 病院助教
- 2023年7月 関西医科大学くずは病院 リハビリテーション科 病院助教
- 2023年10月 関西医科大学くずは病院 リハビリテーション科 助教
- 2023年10月 関西医科大学香里病院 リハビリテーション科

次のページで  
**ディケアセンター・香里の  
取り組みをご紹介します。**

を発案できるよう努めております。1人でも多くの患者さんのQOL向上に役立ちたく、リハビリを必要とされる患者さんがいらっしゃればお役に立てればと思っております。今後とも何卒よろしくお願いたします。

Doctor Interview

## 小児科科長に聞く

関西医科大学香里病院  
小児科 診療講師 科長

### 田邊 裕子

Tanabe Yuko



「**一般小児科診療はもちろん、内分分泌疾患などの専門外来も実施しています**

小児科科長を務めております。田邊と申します。当院着任からすでに8年が経ち、地域の先生方とは日頃から良い関係を続けていただいております。途中、コロナ禍でご挨拶の機会を創出できない期間もあり、お互いに顔が見えるお付き合いができていなかっ

たので、今回改めてご挨拶させていただきます。当科では急性期の一般小児科診療を中心に診療を行うつつ、予防接種外来、小児内分泌外来、小児循環器外来といった専門外来を実施しています。特に私自身が小児の内分分泌専門医ということもあり、子どもの内分分泌疾患診療に特化している点を強みとしており、数万人、何十万人に1人といわれる希少疾患、1型糖尿病などでも診療実績があります。なお、低身長や成長ホルモン分分泌不全症の疑いがある場合の「成長ホルモン負荷試験」の検査については、病院によってさまざまな検査方法を実施していますが、当院は日帰り可能な検査を採用しています。

また、診療体制についても患者さんからご好評いただいております。午前診療と夕方診療では一般外来を、午後診療では専門外来を設けており、レントゲンや血液検査などおおよその検査が可能。大病院の小児科で夕方診療を実施している病院は全国規模でもかなり珍しく、子どもさんや保護者の方への通院の負担を抑えられます。近年は、地域の先生から夕方診療に急遽ご紹介いただき、入院が必要な患者さんをおのま診察のケースも増えてきました。救急への対応で頼っていただけのこと、スタッフ一同光栄に感じております。内分分泌以外の難しい疾患や3次救急対応が必要な患者さんについては、枚方の附属病院に繋ぐことも可能ですので、安心してお任せいただける環境だと自負しております。これからも患者さん、地域の先生の皆さまから愛され、頼りにしていただける小児科であるよう努めてまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

### 一般的な小児科外来に加え、 難しい内分分泌疾患の診療もお任せください

- 低身長
- 1型糖尿病
- 小児肥満
- 体重増加不良
- 思春期早発症/遅発症
- パセドウ病
- 甲状腺機能低下症
- など

## Profile

- 2005年3月 福井医科大学 卒業
- 2005年4月 大阪市立大学附属病院 臨床研修医
- 2007年8月 関西医科大学附属枚方病院 小児科 専修医
- 2008年8月 真美会 中野こども病院 専修医
- 2011年8月 関西医科大学附属枚方病院 小児科 助教
- 2015年4月 関西医科大学香里病院 小児科 医長



Doctor Interview

整形外科医に聞く

関西医科大学くずは病院  
整形外科 助教

黒川 勇人

Kurokawa Hayato

整形外科疾患に対する  
地域ニーズに 대응するべく、  
手術室を増設しました

当院では高山病院長の指揮のもと、数年にわたり整形外科に強いくずは病院を目指し体制強化に努めてまいりました。一般外来、手術からリハビリまで細やかなケアを提供すべく医師を増員。現在は股関節専門、肩・スポーツ専門、膝の人工関節など専門分野をもつ医師がそれぞれの専門性を高めつつ、幅広い外科疾患や外傷を診療しています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただく機会も増え、我々の努力実績が着

実に評価していただけているとスタッフ一同ありがたく感じております。私個人としては脊椎の変性疾患をメインに取り組んでおり、当院着任から約4年半、地域の先生方とは病診連携を通じて大変お世話になっております。ありがとうございます。

さてこのたび地域の医療ニーズにより対応すべく、手術室を増設しましたのでご紹介いたします。当科では診療体制の強化とともに手術件数を増やしてきましたが、今春より従来の1部屋から2部屋に増えた環境で運営しています。増設した手術室は「クラス1000」と呼ばれる清浄度の高い空調設備を備えたクリーンルームであり、人工関節や脊椎など術後感染の予防が重要な手術にも対応しています。また機器類、道具類の見直しを図り、手術室スタッフの作業負担も軽減しました。手術の準備から実施、撤収作業まで効率的なサイクルを実現することで、より万全の体制で患者さんと向き合い、今まで以上に安全・安心な手術を提供できると考えております。

当院整形外科の特長は急性期と回復期の機能を併せ持つ点にあり、さらに枚方の附属病院で主軸となる手術は当院でも概ね実施可能です。今回の手術室増室により、疾患のすばい治療から回復期リハビリ棟へのシームレスな移動、退院まで完結できるという当院の利点がさらに強化されたと自負しています。今後も私たちくずは病院整形外科が、地域の方々の健康寿命延伸に寄与すべく邁進して参りますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



手術室

PROFILE

- 2014年3月 金沢医科大学医学部 卒業
- 2014年4月 関西医科大学附属病院 研修医
- 2016年4月 関西医科大学 整形外科教室 入局
- 2016年4月 関西医科大学総合医療センター 整形外科 医員
- 2017年4月 マックシール興病院 整形外科 医員
- 2018年4月 吉田病院 整形外科 医員
- 2019年4月 明生病院 整形外科 医員
- 2020年4月 関西医科大学くずは病院 整形外科 医員

Speciality Service Interview

関医デイケアセンター・  
香里のご紹介  
担当相談員に聞く



関西医科大学香里病院  
関医デイケアセンター・香里  
相談員、介護福祉士

赤松 和博

Akamatsu Kazuhiro



専門医とコメディカルが  
安心・安全な通所リハビリをご提供。  
クリニックからのご紹介もお待ちしています

センターは短時間利用のリハビリテーション特化型施設として、2018年春に開設しました。急性期を終えられた方、または介護保険認定を受けている方を対象にリハビリテーション（以下リハビリ）をご提供。筋力持久力トレーニング、歩行トレーニング、空間認知トレーニングなどを実施しており、医師・コメディカルによる綿密なミーティングや運動機能の定期的な評価により、ご利用者さん一人ひとりに対し常に最適なリハビリプランをご提供します。私たちの強みは関西医大のグループ力と、香里病院が地域密着型病院として培ってきたエリアの方々との繋がりがります。通所リハビリ施設として一般的な機器類の充実はもちろん、関西医大が開発した口ポット、トレーニングマシンをプログラムに取り入れています。またリハビリ領域の専門医が常勤しており、関西医大系列の3つの病院とは電子カルテを共有していますので、体調に不安がある方でも安心してご利用いただけるのではないかと思います。

運動に焦点を当てた施設ということもあり、ご利用者さんは運動に前向きな方が多く明るい雰囲気です。運動時間（1〜2時間）に通所時間を含めても2〜3時間程で完結するため、日常のスケジュールに組み込みやすい点をメリットに感じていらっしゃる方も多いようです。現在、ご利用者さんの多くは系列病院、ケアマネージャーさ

んからのご紹介ですが、1割ほどが地域のクリニックからのご紹介で、これまで来ていただいた方々です。今後も地域医療に貢献できるようにスタッフ一同頑張っておりますので、リハビリを必要とされる方がいらつしゃればぜひお声がけください。認知症、リウマチ、脊柱管狭窄症、脳血管疾患など幅広い病歴をお持ちの患者さんにご利用いただいている施設であり、初めての方には無料でお試しいただける体験プログラムをご用意しております。これからも質の高いケアプランでご利用者さんの自立支援、地域社会への参加をお手伝いしてまいります。





Interview

## 心臓リハビリテーションのご紹介

関西医科大学くずは病院  
リハビリテーションセンター 主任  
理学療法士

**森井 裕太**

Morii Yuta

心不全の進行・再発を予防すべく、  
入院患者さんに向けた  
心臓リハビリテーションの提供を開始しました

心臓リハビリテーションの  
チームを立ち上げました

くずは病院では年々増える心不全の患者さん  
をケアするべく、回復期リハビリテーション病  
棟を対象に心臓リハビリテーション（心リハ）の提  
供を開始しました。一般的に、心リハといえば急  
性心筋梗塞や狭心症といった急性疾患や心臓手  
術を心臓手術を受けた患者さん向けに実  
施されますが、当院では主に整形外科術後や脳  
卒中後で様々な原因で心臓機能が低下した心  
不全の方々に対象にしています。心不全は  
QOL（生活の質）を大きく損なう病気ですが、  
進行を予防できるという特徴があります。一方  
で、心不全を患って入院した経験のある人は約  
半数の方が病後5年のうちに亡くなるというデー  
タがあり、これはがんと同じくらい深刻な病気  
であることを意味します。心リハチームによる  
適切な医学管理、栄養指導、運動指導によって、  
患者さんの心臓機能の改善や心不全の再発防  
止、ひいてはQOLの向上を図ります。

より安全なりハビリに  
欠かせない心リハの実施

当院は関西医科大学の4つの附属病院の中  
で、唯一の回復期リハビリテーション病棟を有し

### Profile

- 2006年3月 阪奈中央リハビリテーション専門学校 卒業
- 2006年4月 阪奈中央病院 リハビリテーションセンター 入職
- 2019年4月 関西医科大学くずは病院  
リハビリテーションセンター 主任
- 2023年3月 関西医科大学大学院 医学研究科 修士課程修了  
DHIEP program 修了

取得  
資格

循環・脳卒中認定理学療法士  
心臓リハビリテーション指導士  
サルコペニア・フレイル指導士  
心不全療養指導士

ます。近年、社会の高齢化にもなつて回復期リ  
ハビリテーション病棟の入院患者さんに高齢の  
方が増え、必然的に併存疾患を持つ症例が増え  
ました。整形外科や脳卒中中の患者さんが多数を  
占める中、多く見受けられるのが心疾患の既往  
症のある方々です。私自身これまで多くの患者  
さんと接する中で心疾患がリハビリのネックに  
なることを幾度も経験し、心臓に関する症状の  
管理、ケアの大切さを実感してきました。当院が  
心リハチームを立ち上げた理由もまさにここに  
あります。循環器領域が専門である高山病院長  
の「心疾患の既往症がある方々に安全にリハビ  
リテーションを行うためには、心リハの導入が不

可欠であるという決断のもと、チーム設立に向  
け準備を進めました。

心リハチームは医師、薬剤師、管理栄養士、看  
護師に加え、理学療法士・作業療法士を含むリハ  
ビリテーションスタッフで構成されています。  
チームの設立準備から現在まで、スタッフ一同、心  
疾患に関する勉強会の実施や心不全療養指導  
士の資格取得などに努力し、質の向上を目指し  
てきました。もともと回復期病棟で患者さんを  
ケアする体制がありましたが、従来以上に多職  
種が深く関わるチーム体制となったことで、患者  
さんの退院後までしっかり見据えた個別性のあ

るケアを提供できるようになったと自負してい  
ます。

ゆくゆくは対象を広げ  
地域の健康維持に貢献したい

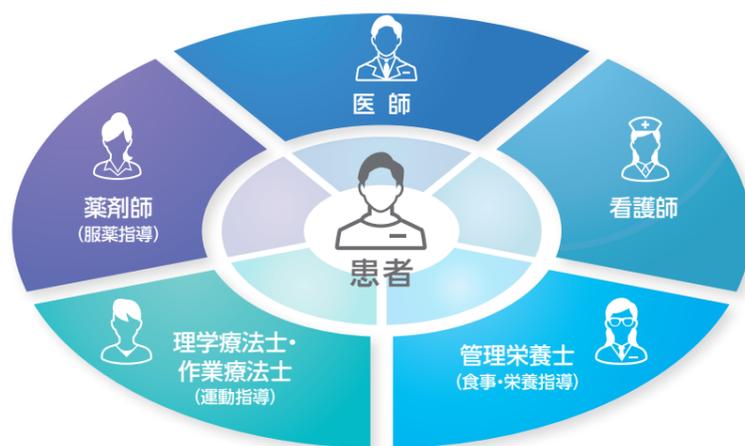
心不全の患者さんにとっての課題は、再発か  
らの再入院です。そこで心リハチームでは体力向  
上や生活習慣の改善を図るべく、必要に応じて  
CPX（心肺運動負荷試験）を行い、運動療法を  
実践し、服薬や食事栄養などの生活指導を行い  
ます。患者さんには、まずはむくみや息切れ、血

圧の急激な変化といった心不全の症状を理解し  
ていただくところから始め、ご家族も含めて再  
発予防に向けたアプローチをすることで、日頃  
の体調管理に意識を向けていただくようにしま  
す。これによって退院後の再入院率の低下や健  
康寿命の延伸を目指します。

現在、心疾患は国内での死亡原因の上位にあ  
り、心リハに対する医療ニーズは年々高まってい  
ます。私たちはまだ症例数も少なく、現在対象と  
しているのは院内患者さんのみですが、ゆくゆ  
くは対象を広げ通院の患者さんにも受け入れら  
れるような充実した体制にしていきたいと考え  
ています。目標は、私たち心リハチームの存在が  
地域社会の健康維持に貢献できることです。今  
後もスタッフ一同スキルアップに努め、一丸となつ  
てより質の高いケアを追求してまいります。



### 心臓リハビリテーションチーム



現在は回復期リハビリテーション病棟の患者さんのうち、  
心不全の既往症がある方を対象に活動しています。



Doctor Interview

内科医長に聞く

関西医科大学天満橋総合クリニック  
内科 医長(外来部門・総合健診部門)

畑田 憲吾

Hatada Kengo

生活習慣病の予後改善を  
目指し、SAS検査、  
CPAP治療を  
開始しました

当クリニックの外来部門は、大阪都心における地域診療(かかりつけ医)の役割に加え年間2万人超の診療実績を有する総合健診部門と協働している環境から、生活習慣病に対し「予防」に軸足を置いた診療(心臓・脳・血管病などに起因する「早すぎる死」を予防し「健康寿命」の延伸に尽力すること)をも、その使命として診療に努めております。その一環として外来部門では2023年度から睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断・重症度評価のための簡易モニター検査と、重症閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)に対する持続気道陽圧(CPAP)治療を開始いたしました。SASのうち9割以上を占めるOSAの有病率は我が国において12%と高く、欧米とほぼ同等のcommon diseaseとされています。特に無呼吸低呼吸指数(AHI)が30/hrを超える重症OSA患者では心血管死亡リスクが有意に増加すること、またSASは高血圧や糖尿病など生活習慣病の病

態進展に関与することが明らかになりました。現在SAS治療の目的は「日中の諸症状やQOLの改善」に加え、「心血管病発症予防を含めた生命予後改善」とされています。外来部門では高血圧患者を中心にOSAの簡易モニター検査を実施、重症OSAと診断された方にはAuto CPAPを導入し、自覚症状と将来リスク軽減に努めております。進化を続け増してゆく予防医学の役割を見据えながら、当クリニックでは今後取り組むべきこととして、以下の2点について考えております。

① 体格指数(BMI)27.0を超える肥満は心臓・脳・血管病やがんによる死亡率増加に関与することが指摘されています。このようなリスクの高い集団に対して、高血圧や糖尿病などの生活習慣病やOSAを含め既存疾患への治療に加え、運動療法・メデイカルフィットネスを継続して体重を適正化し、根本的に将来リスクを軽減する、健診からのシームレスな個別化医療(体制を整備すること)。

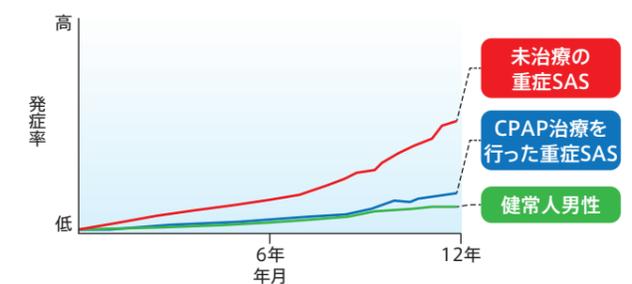
② 汎用化が見込まれる遺伝子解析技術や新たなバイオマーカーを用いた生活習慣病などに関する発病前予測予後予測ツールを活用し、個々の受診者の将来リスクを見据えて必要な行動変容や運動療法を含めた治療介入を成す、「先制医療」体制を構築すること。

これらを推進するために、関西医科大学の充実したネットワークのなかで関連する部門との連携を構築し、当クリニックとしての職務を遂行したいと考えております。大阪都心エリアの良好なアクセスを活かしつつ、最新最良の予防医療を実行する機関として尽力いたしますので、今後ともよろしくお願いたします。

Profile

- 1992年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1992年5月 関西医科大学附属病院 内科 研修医
- 1993年4月 関西医科大学 第2内科 医員
- 1993年6月 国保古座川病院 内科 医員
- 1994年6月 医療法人回生会宝塚病院 内科 医員
- 2000年8月 関西医科大学 第2内科 心臓血管病センター 助手
- 2001年11月 関西医科大学大学院 医学研究科 博士課程 修了
- 2002年2月 米・バージニア大学ヘルスシステム 心臓血管部門 リサーチフェロー
- 2004年7月 関西医科大学香里病院 内科
- 2006年1月 関西医科大学附属病院 循環器腎内分泌代謝内科
- 2006年4月 関西医科大学総合医療センター 循環器内科
- 2007年4月 医療法人回生会宝塚病院 循環器内科 医長
- 2020年8月 関西医科大学天満橋総合クリニック 内科 医長

致死的心血管イベントの発症率 (イメージ図)



重症SAS患者さんについて、未治療と治療を行ったケースを比較すると、治療を行った患者グループの方が致死性・非致死性のいずれも心血管イベントの発症率が減少したという報告があります。



Speciality Service Interview

「新しい予防医療」の  
研修を開始します

くずは駅中健康・健診センター  
センター長

浦上 昌也

Urakami Masaya

人間ドック健診専門医の  
暫定研修施設に  
認定されました

予防医療の重要性が増し、その守備範囲(0次〜5次予防)が広がっています。人間ドック健診は予防医療の一部にすぎません。予防医療の目的には、病気の予防だけではなく、持病の進行を遅らせること、他の病気の併発を防止し、社会復帰を促すことも含まれます。その様な状況を背景に、人間ドック学会は学会名を人間ドック・予防医療学会へと変更し、単なる人間ドック健診にとどまらず、広

く予防医療に取り組み姿勢を示しています。

今後は、人間ドック健診のみならず、広範な「新しい予防医療」に対応できる予防診療専門医の育成が重要になってきます。現在は、人間ドック学会と日本総合健診医学会が共同で専門医制度を維持し、人間ドック健診専門医(予防診療専門医)の認定を行っており、将来的に新専門医制度のなかで予防診療専門医として認知されるための努力がされているようです。残念ながら現状では、単なる人間ドック健診ではなく多様な予防医療を研修できる施設が極めて少ないと思われれます。

私たちは、若い医師の予防医療への参入を促すため、予防医療の研修をもっと魅力あるものへと進化させる必要があると考えています。天満橋総合クリニックおよび健康科学センターと連携して、未来志向の魅力ある研修環境を整え、予防診療専門医の育成を行いたいと考えています。そのため、当センターは人間ドック健診専門医制度の研修施設認定の申請を行いました。当センターは設立後間もない施設ですが、研修内容を評価され、暫定研修施設に認定されました。私が当センターに着任するまで勤務していた天満橋総合クリニックと連携することにより、人間ドック健診の症例を多く経験できます。天満橋総合クリニックでは、これまで7名の専門医と3名の指導医を生み出した実績があります。健康科学センターと連携することにより、多様な運動療法の研修も可能となり、研修の幅も広がります。4月から研修を開始します。若い医師が予防医療に関心を持っていただけることを期待しています。